



1998.7.10
第106号

編集・発行
福島県教育庁
会津教育事務所
遠藤久夫
編集協力
沼田協議会
北会津中学校
地教委
小中



教育改革と教師の意識改革

福島県教育庁会津教育事務所長 遠藤久夫

国の六大改革の一つとして、進められている世紀の転換期の教育改革は文部省の教育改革プログラムに沿って着々と推進されている。

今回の教育改革の基本理念については、中央教育審議会の答申において「ゆとり」のなかで「生きる力」を育むことを目指し、個性を尊重した教育を展開していくという基本的な考え方が明確にされた。

この理念を実現するための教育内容・方法については、教育課程審議会の審議まとめにおいて、教育課程の基準の改善のねらいの力点として「豊かな人間性や社会性を育成すること」「自ら学び、自ら考える力を育成すること」、「基礎基本の確実な定着と個性を生かす教育を充実すること」そして、「各学校の創意工夫を生かした特色ある教育を展開すること」の四つを掲げ、本年度中に学習指導要領の改訂を行うとしている。特に、ゆとりのなかで生きる力を

育てるために、授業時数の削減に加えて、各教科の指導内容の厳選を求め、又、各学校が創意工夫を生かして行う「総合的な学習の時間」の創設など各学校の特色ある教育活動の展開を求めている。

さらに、これらの理念と教育内容・方法の実施の直接の担い手である教員の資質、能力の向上については、教育職員養成審議会の答申において、教員の養成、採用、研修の各段階において、その充実・改善を図ることを求めている。

このように教育改革が着実に進んでいるが、最も重要な教育改革は、各学校段階における教育改革である。新しい教育改革の理念に基づき、新しい教育内容、方法による教育が各学校において具体的な教育活動として着実に実践されなければ、二十一世紀を生きていく子供たちに育成すべき資質、能力は育ち得ない。しかも、その新しい教育課程の実施の時期が文部省の教育改革プログラムの改訂により一年繰り上がり、

平成十四年度からの実施となり、各学校においては、平成十三年度には、特色ある学校づくりを目指して、各学校の自主性と創意工夫が強く求められる新しい教育課程の編成に具体的に取り組むこととなる。

それゆえに、教育改革の実際の担い手である私たち教職員は、今のうちから、新しい教育の理念や内容等についての理解を深め、意識改革を図っておくことが強く求められる。

今日、教師に求められる意識改革の必要性は、教育改革の当事者、新しい教育の創造者として、強い自覚と意識を持って教育改革にかかわり、自校の教育改革への取り組みを具体的に進める上からであり、又、現行の教育課程の実施をより意味あるものとして実施するためである。二十一世紀を展望した教育改革の実際の担い手は、児童生徒の教育活動に直接かかわる校長を中心とした教職員体制であることを考えると、教師の意識改革の重要性を改めて確認しておきたい。

基礎学力向上をめざして

「学力向上IDプラン」の推進

基礎学力向上を図る学習指導の取り組みは、授業による実践とその授業を支える授業外の実践とで進められ、様々な成果を得ることができました。その具体的な取り組みの一端を紹介します。

一、「まとめと評価」の充実

課題の追究、解決の段階で得た「基礎・基本」を確実に定着、発展させるために「まとめと評価」を次のようにとらえ、学習過程に位置づけている。

○本時で分かったことと、できたことを定着・発展させる場

○本時で何が分かったか、分からなかったかを確認する場

○本時の学習を整理し、自己修正をする場

○学習の効力感を感じ、新たな学習意欲を喚起する場

ドリル学習においては、個々の学力差、学習の速度差等の個人差に対応するため、学習の複線化（コース別学習）を図っている。

基本的には、「復習コース」「定着コース」「発展

コース」を設定し、問題の内容、量について考慮している。

二、「指導資料」の作成

各学校で日々実践している国語、算数・数学、英語について、子供の変容に大きな成果のあった事例をA四判一枚程度で紹介し、町内小中学校職員に配布している。

事例1 算数科におけるコンピュータの活用

①分数・小数の計算のヒントカードとして活用
②計算ドリルとして活用

事例2 新聞記事の活用

①新聞記事をみんなで検討しながら見出しをつける。
②新聞のコラム欄をノートに貼り、半分に要約を書く。

授業研究会と共に、このような情報交換によって教職員の資質の向上に努めている。小中の連携ということでも成果が上がっている。

詳しい資料を希望される場合は教育事務所までご連絡下さい。

生徒一人一人が生きて「ふろの学習」

昭和村立昭和中学校

本校は奥会津山中の全校生徒四十九名(分校六名)の小規模校であるが、生徒たちは学習や部活動、その他のいろいろな活動に積極的に取り組んでいる。

その一つに本校の特色ある教育活動としての「ふるさと学習」がある。各生徒が自分の住む昭和村について課題を持ち、班単位でお年寄りや企業・公的機関などを訪ねて、体験を通して研究を深めている。この活動には創意の時間を充てて年三回、二時間単位の活動を

設定している。内容は、歴史や自然、文化、産業など様々な分野に広がっていて、各班のどの研究にも創意と工夫が見られる。また村の公民館の「少年講座」と連携し、講師の紹介を依頼している。さらに本校教師の他に公民館職員も各班の活動において支援に当たっている。

継がれ、よい伝統となってきた。今年度も、村内からの期待に応えつつ、生徒たちの学習成果が昭和村に対する提言としての役割を果たすよう願っている。

特色ある学校紹介

小松地区に伝わる獅子舞は、春の彼岸に仏の供養のため、寺院や新仏の家、時には街にもくり出して舞うので、彼岸獅子と呼んでいる。踊りには三匹で踊る庭入り、大桐、山おろし、柴探し、女獅子かくし、撲舞、袖舞等があり、一匹舞には太夫獅子の弊舞、太夫舞、女獅子の棒舞、杜獅子舞の弓滑り、牝獅子舞等が残っている。

地域に学ぶ

いた国家老山川大蔵の一隊が、鶴ヶ城に入るのに困り、包圍を破る一策として重左衛門・孫左

文化祭での生徒たちの発表にはすばらしいものがあり、自信にあふれたものである。そこには郷土を愛する心が感じられる。また、上級生ほど積極的に活動し、それが下級生へのよい刺激となって受け

衛門が決死の獅子舞を組織して、通り囃子を奏しながら獅子舞組を先頭にして、一兵も損じることなく見事、敵陣を突破したと伝えられている。明治四年二月、山川大蔵の

戊辰戦争で活躍した獅子舞 — 小松彼岸獅子舞 —

北会津村教育委員会

計らいて小松獅子隊の若者たちが容保公や容大公をご慰安申し上げるため、舞が演じられた。

公は大変お喜びになられ、獅子隊の勇気と併せてお褒めの言葉を下さされ、小松獅子に



郷土料理を体験する生徒たち



限り煩掛と高張提灯に葵御紋の使用を許されたという有名な話が残っている。小松彼岸獅子の伝承は地元保存会に受け継がれ、後継者に対して絶えることのないよう指導が行われている。

真の「学社連携」を求めて！

会津教育事務所生涯学習課

あるテレビ番組に「課外授業・ようこそ先輩」というのがある。その中で、自分の子を中学生の時に自殺で亡くしてしまったある詩人が、自責の念を込めて語っていた。「いつも、「中学生になったらすべて自分の責任で行動しなさい。」と言いつつ聞かせ、自立した強い子どもにも、と願ってきたが、それよりも大事なことがあったのではないか。それは、「人間は多くの生命によって生かされている存在である。」ということである。

上に家庭・学校・地域の連携を強化し、地域ぐるみで青少年の健全育成に努めていくことが強く求められている。

また、二〇〇二年には、完全学校週五日制が実施される予定であり、ますます学校外活動の充実を図っていく必要がある。

これらの諸施策を実現していくためには、「学社連携」が、キーポイントになる。

「人間は多くの生命によって生かされている存在である。」

各市町村においても、家庭教育及び青少年教育の充実を最重要課題として、各種事業を展開しているが、学校との連携なしには、その成果が期待できないところがある。

「感謝や畏敬」の気持ちを育むことこそが何よりも大事ではなかったか」と。

また、学校教育現場においても、地域に開かれた学校や学校のスリム化、時代のニーズに応じた教育等の展開・充実を指向するには、社会教育との連携が不可欠である。

現在、青少年のいじめや不登校、非行などが、大きな社会問題になっている。

「ゆとりの中で、生きる力を育む」ための「学社連携・融合」の在り方や協力体制の確立など、早急に解決し、子どもたちが「学校(舎)は楽しい」と感じ、郷土の文化や自然、地域の人々に触れながら、元気に群れ遊ぶことができる環境(楽舎遊郷)づくりが急がれている。

生涯学習だより

県教育委員会では、本年度の戦略事業として「すこやかハートモニー」「心の教育」総合推進事業」に取り組み、家庭及び地域の教育力の向上に努めているところである。子育ての原点は、家庭にあることを再確認し、今以

て、子育ての原点は、家庭にあることを再確認し、今以

私の実践

歯の健康指導

喜多方市立入田付小学校 養護教諭 高橋 安世

社会環境や生活様式が多様化している現在、早いうちから歯の健康についての知識をもち、実践力を養うことが重要であると考え、次のような実践を試みた。

本校は全校児童数が三十三名という小規模校であり、一人一人の児童に目が届きやすく、個の実態に合わせた指導がしやすいという利点がある。

そこで昨年度は、う歯ゼロを目指して歯磨き指導に取り組んだ。全校生がいっしょに食堂で給食を食べるので、食事の後、使用に適した歯ブラシかどうかをみる「歯ブラシ点検」や、歯の磨き方の指導

の後、よく磨けたかどうかカラーテストを使用して「歯磨き判定」をし、磨けていない児童に対しては個別指導を行った。家庭でも、「親子歯みがき」を各学期ごとに一週間ずつ実施してもらった。

また最近では、軟らかい食べ物の氾濫により、そして力が低下しているため、そして必要性的について重点的に指導をした。その後「かみんぐカード」を作成し、そして「目標回数と実際の回数」を三日間調べ、それを間をおいて繰り返し、実践化を図った。その結果、現在では、二年生以上の児童については正しい

歯みがきができるようになってきた。また、そして指導により、よく噛むことの重要性が分かり、意識して噛む児童が増えてきた。

今後とも家庭や地域、担任との連携を深め、効果的な保健指導を進めていきたい。



歯ブラシ点検

訪問相談雑感

福島県学校教育相談員 山内 昇

毎朝、母親の車で学校の昇降口までは来るが、車から降りられず、専用の出席簿に丸印を記して帰宅している小学生。また、授業が始まった頃を見計らって登校し、特別室で一定の時間を過ごし、他の生徒に気付かれないようにそっと帰っていく中学生。

本来、学校は、集団生活ながらゆえに教師や友とのふれ合いを通して、人間としての

生きる力や生き方を学び、よりよい人格形成の基礎づくりには、絶好の所であるはずなのに、その集団生活に適応できないで苦しんでいる子どもがあまりにも多い。

学校を訪問するとはほとんど校長先生が登校拒否の現状を詳しく説明してくださることから、全校体制で登校拒否の子どもをなくしようと努力しておられる様子がう

かがわれて心強い。しかし、それでも増加傾向にある現状を打開するためには、この問題を学校だけで抱え込まないことや、初期の段階で専門機関との連携を図ることが大切である。さらに、対症療法だけでなく、予防処置を重視した対策への転換等が今後の大切な課題であると感じられるので、検討をお願いしたいものである。

今後の課題であると感じられるので、検討をお願いしたいものである。

子どもの明日をひらく生徒指導

こんな学校いかがですか

としての充足感やプライドが生じる。

はてさて、地味な授業と



子供たちが学級・学校訪問をする

百聞は一見に如かず。B校のよう

な学級やS校のようになりたい学校にしたいのだった。子どもに直接他校の子供たちの活動の様子を見せる。



あいさつが心を明るくする

初めは形式的に始まったあいさつも、いつしか自然に交わされるようになり、不思議と相手に親しみを覚える。あいさつは心の扉を開き取り払う最良の方法である。



H小学校

授業で子供を大切に

授業で子供一人一人を大切にしなければならぬ。それは、毎時間の授業でどの子供も「分かる」「できる」体験をすることである。そこに人間



G中学校

プライドを育てる

最高学年が学校生活全校のモデルとなるような学校は、学習面でも生活面でも温かみの中に活気が満ちあふれている。

私の抱負

源とした強さで

会津坂下町立坂下小学校

教諭 木村路子



私の一番好きな花はマーガレットである。どのような環境にあっても、純白の花

を咲かせる。あの源とした強さ、美しさに心ひかれるからである。初めて担任する子どもたち。愛情をいっぱい受けようと葉を大きく広げ、いつしかそれぞれの色や形の花を咲かせようと、日々成長し続けている。変化の激しい社会にあっても、マーガレットのような強さで困難を乗り越えていけるような子どもであってほしい。教師としてまだ微力であるが、一人一人のよりよい成長を援助できるよう、熱意をもって、子どもたちに愛情いっぱいの光を注いでいきたい。

多くの方々に支えられて

緒川町立首里中学校

教頭 佐川正人



本校に赴任してからまだ間もないが今までに沢山の人の人達との出会いがあった。

校長先生はじめ諸先生方、百十三名の生徒達、保護者や地域の方々。今までの転任と違うのは、学校の外の方々と接する機会が多いことである。いかに学校が、様々な方々とのかわりにおいて存在しているのかを教頭になって改めて認識させられた。そして学校の内外を問わず、すでに様々な協力や援助をいただいている。とまどいながら自分に優しく対応してくださることに感謝の連続である。この多くの人達との出会いを大切にしながら、今後の教育活動を充実させていきたい。

たくましく生きる力を

西会津町立藤川中学校

校長 佐藤 玄



学校のすぐ前の山々や田に自然の移り変わりをじかに感じながら、明るく屈

託ない二十六名の生徒たちとの生活もはや二か月が過ぎた。不登校も非行もなく、さしたる問題のない学校であるが、人口の減少に悩むこの地に生きる生徒たちの将来を考えると、何かせずにはいられない思いにかられる。この地へ残るにせよ、離れるにせよ、現実の社会は厳しい。そのためにも、生徒たちの将来を見据え、まさにたくましく生きる力を、少しでも培ってやるのが、私の大きな責務であると思っている。教職員と力を合わせ、そのための支援を精一杯したいと思う。

心に残る人々



心に残る人
たとえば、教
え子達の成長
の中にもある。
教師冥利とし

て我が事のように嬉しく思う。ここでは、Sさんの努力の足跡を紹介しよう。

会津農林高校へ入学後、二年のころから化学に非常に興味をもち

喜多方市教育委員会教育長 齋藤 安 俊

始めた。動機は、食品化学で実験が成功し、分析した実験値が求められることに感動し喜び、化学の世界に魅了されたからである。

卒業後、国家公務員化学技術職に合格、大蔵省の中央研究所へ就職、その後、努力し三十九歳で東京大学より工学博士号を授与され、現在、東京税関で勤務中である。今、一人一人の能力・適性に応

じた教育のあり方が求められているが、Sさんの例でつくづく思うことは、人間の能力は生まれた時に出来上がっているのではなく適時に適切な出会いがあり、本人の努力が相まって能力を開花させるものだということである。正に、念すれば花開くのである。

教育は、自分さがしの旅を扶ける営みともいう。千の人に千の花ありの原点を忘れてはなるまい。

私の作品

詩

「ソーラーカー」

湯川町立湯川小学校

四年 小林 絵美

ピカッ、ピカッ、
太陽といっしょに
光電池も光る。
わあ、まぶしい。
目がいたい。

ワイーン、ワイーン、
うなりを上げて
坂道だってぐんぐん上がる。
あっ、
桃子ちゃんのにめかれた。
負けるな、負けるな、
車のかげで、びたり。
二台いっしょに止まった。
おもしろいなあ。

習字

「光」

北塩原町立北山小学校
四年 酒井 静香

四年 酒井 静香

「大成」

高野村立高野中学校
一年 二瓶 優希

一年 二瓶 優希

版画

「狩りの瞬間」

湯川町立湯川中学校

二年 飛田 伸悟



獲物を捕まえる瞬間の表情の良さと、細かい所までいいいかに表現できた点がすばらしい。全体的にも良くまとまっている作品である。

(指導者評)